

# 地域リハビリテーション支援センターだより

(神奈川県リハビリテーション支援センター)

平成 29 年 8 月 発行 NO-61

地域リハ支援センター



## 高次脳機能障害セミナー理解編

### 当事者・家族がお互いに「魅力ある人生」に

平成 28 年 8 月 26 日(土)に神奈川県総合医療会館にて、高次脳機能障害セミナー理解編を開催しました。今年度は「高次脳機能障害とともに暮らす」をテーマにしましたが、今までとは少し趣向を変えて当事者・家族に登壇していただきました。講演の他に当事者・家族・支援者による座談会を行い、当事者・家族の生の声を届けるという試みを行いました。



セミナーには 200 名程の方にご参加いただきましたが、例年に比べ当事者・家族の参加が多いセミナーとなりました。登壇された当事者の方は兩名ともに「高次脳は良くなっている」と力強く宣言してくださり、私を含め参加された皆さんにとっても希望となる言葉



だったのではないかと思います。その他、「支援する人は(当事者・家族に)とっかかりを作ってあげてほしい」、「一歩進むのに一年かかると思っていてくれると良いかなと思う」といった、経験したからこそ伝えられる言葉の重みを感じることができました。またご家族には「お互いに魅力ある人生になるようにしたい」と未来に向けてとても素敵な言葉でまとめていただきました。また座談会の中で、「当事者と家族は両輪のようなもの。支援者はその間をつなぐシャフト。支援者は当事者と家族の間でバランスをとって支援していくことが重要」という言葉が印象に残っています。本セミナーで語られた内容を心に留め、今後の高次脳機能障害支援をより良いものにしていきたいと思えます。(永井 喜子)



【講師】  
・はしもとクリニック経堂院長  
・当事者とそのご家族  
・神奈川県リハビリテーション病院

橋本 圭司

作業療法士  
臨床心理士  
ソーシャルワーカー

廣田 祐樹  
殿村 暁  
佐藤 健太

# 今年も熱い！リハビリテーション専門研修

## 身体障害の方の在宅就労支援(6月17日開催)



在宅雇用に向けた就労支援や、生活の整え方や就労に向けた環境調整などの職業準備性について専門職から学びました。また、障害がある方の在宅雇用に取り組んでいる企業の方から、取り組みや在宅雇用の現状などを伺いました。

- 【講師】・神奈川リハビリテーション病院 職能科 松元健 植西佑香里  
 作業療法科 中川翔次  
 ・七沢自立支援ホーム 視覚障害部門 内野大介  
 ・(株)NTT だいち 和山文彦

## 高次脳機能障害セミナー小児編(7月1日開催)

小児脳損傷児の家庭や学校といった地域生活の中での、具体的な評価・身体や認知面へのリハビリテーション、活動(アクティビティ)、家庭や教育場面での対応などについてわかりやすく解説しました。

- 【講師】・神奈川リハビリテーション病院 小児科 有賀賢典 心理科 斉藤敏子  
 体育科 宮井亮 看護科 鈴木陽幸 MSW 中澤若菜  
 ・地域リハビリテーション支援センター 一木愛子  
 ・秦野養護学校かもめ学級 松尾千絵



## PTOTのための土曜教室(7月15日スタート)

月1回、5カ月にわたって行う研修です。毎回異なる講師による講義と実技を通じて、臨床の実践力を高めることを目標にプログラムを組んでいます。初回は「移動の援助と構え」をテーマに、セラピスト自身の体の構えと動きを身に付けました。次回からはよいよ「実戦的評価と治療」について学びます。

【講師】地域リハビリテーション支援センター 平田学

【担任】・地域リハビリテーション支援センター 一木愛子

- ・神奈川リハビリテーション病院 作業療法科 宮内繭子 理学療法科 横山哲也  
 (平田 学)



## 今後の研修予定

申し込み・お問い合わせはこちらから

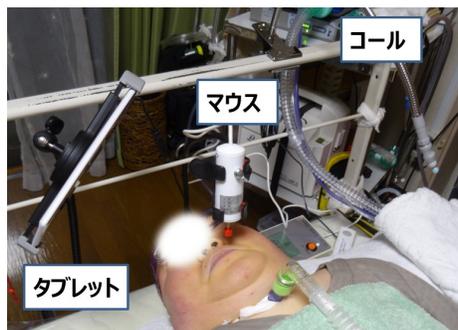
地域リハ支援センター

住宅改造・改修セミナー	9月9日(土)	医療職・ケアマネ・建築関係者など	
視覚障害のある方への支援	9月12日(火)	医療職・福祉職・介護職など	
身体機能障害の理解	9月19日(火) 26日(火)	相談支援専門員・福祉職など	
車椅子シーティングの理論と実際	9月23日(土・祝)	医療職・福祉職・介護職など	
(新) からだにやさしいポジショニング入門	10月3日(火)	介護職・福祉職など	
脊髄損傷のリハビリテーション	実務編	10月14日(土)	看護師・PT・OTなど
褥瘡予防セミナー	10月17日(火)	医療職・福祉職・介護職など	
排泄ケアの知識と実践	10月26日(木)	医療職・福祉職・介護職など	

## リハ専門相談 事例紹介シリーズ⑤

# IT機器を使って手に入れた 1人で過ごす自分の時間

IT機器が定着しない理由の一つに、機器の設置の煩わしさが挙がる場合があります。そこで今回は長きにわたり、ベッド上での余暇時間の過ごし方を模索し、タブレットを導入したことにより、活動・参加が拡大した方の支援についてご紹介します。



モルキオ症の30代のAさんは、日頃母の介助のもと、ベッド上でテレビ鑑賞や読書をしていらっしゃいました。身体状況は若干の手指の動きと、頸部、顔面筋の動きがあるのみで、身の回りの動作のすべてに介助が必要で、母は本人のそばを離れることが難しい状況でした。今まで様々な方法を検討しましたが、いずれも機器設置の煩わしさもあり、実用化できずにいました。本人のニーズである、①インターネットでいろいろな情報を閲覧したい、②メールなど外部との通信がしたい、を踏まえ、再度母と本人を支援しているヘルパーの設置の簡便さも視野に入れて検討を行いました。

まずは、どのタブレットを使用して、どこを使って、どのように、何の機能（アプリ）を使って操作するのかを念頭に、iPadとAndroidのタブレットの操作性を比較しました。iPadはスキャンニング機能でほっぺタッチスイッチを使用し、マウス機能が使えるAndroidは口（くち）マウスを使用し、それぞれ操作の体験を行ないました。その結果Androidタブレットを選択し、口（くち）マウスで操作をすることにしました。加えて、タブレットで使用できる学習リモコンを選定し、電気やテレビ、エアコンが操作できるように設定しました。固定具はクリップ式の蛇腹タイプとして、緊急時用のコールは、ワイヤレスのホームコールを導入しました。現在は、母は本人のそばを離れ庭のガーデニングの時間がもてるようになり、本人はメールやLINE、インターネットなど使用時間が拡大し、生活で定着しつつあります。



このIT支援を通して、支援は、本人の身体機能やニーズに合わせた機器の選定だけでなく、介助者の設置の容易さや家族を支援するヘルパーも含めて環境調整することが重要であると感じています。今後生活に定着することで、母の趣味活動の時間の確保、そして本人の活動や参加に繋がるのではないかと考えます。

（一木 愛子）

### H29年度4月～8月リハ専門相談実績(8/15時点)

4～8月(8/15時点)	新規	継続	電話	訪問	来所
脳性麻痺	8	10	10	4	4
神経・筋疾患	8	15	16	4	3
脳血管障害	10	8	17	1	0
脊髄疾患	5	6	8	2	1
脊髄損傷	2	1	2	1	0
骨関節疾患	4	2	6	0	0
後天性脳損傷(除CVA)	6	5	9	2	0
知的障害	9	11	15	5	0
内部疾患	0	0	0	0	0
その他(切断・加齢等)	9	1	8	1	1
合計	61	59	91	20	9

4～8月(8/15時点)	訪問	来所
補装具・福祉用具機器	10	6
環境整備	2	1
身体機能評価	5	0
ADL指導	0	0
訓練プログラム指導	1	1
介護指導	0	0
支援内容検討	2	1
医療	0	0
その他	0	0
合計	20	9

# 平成 29 年度第 1 回神奈川県高次脳機能障害 支援ネットワーク連絡会

8月1日に平成29年度第1回「神奈川県高次脳機能障害支援ネットワーク連絡会」を開催しました。今回の連絡会では、会議の前に、茅ヶ崎市の「地域活動支援センター楽庵」の見学をさせていただきました。楽庵では、パソコン、陶芸、畑作業等を行いながら、高次脳機能障害の方がそれぞれ目標を持ち通所されています。高次脳機能障害の支援において、相談等で連携させていただく機関がありますが、実際に見学をさせていただくことがよって、より具体的な連携強化や情報を共有する機会に結びつくと思いますので、今後も見学は行いたいと考えています。

見学後は例年通り会議を開催しました。会議では、事業報告や事業計画等についての意見交換や事例検討を行いました。意見交換の一つに当事者・家族会について話題が挙がりました。当事者・家族会は県内各地域で開催されていますが、継続するためには、運営方法、対象者、参加者等の課題があげられました。当センターでは、家族会、支援者、専門機関との連携を図りながら実施することで継続をしており、地域でこの会が開催される機会を活用して相談できる「場」を大切にしています。事例検討では、病前の性格や病識、家族関係等様々なことを考慮しながら支援をしているケースでした。困難事例を情報共有することから支援の確認や質の向上を図り、さらには支援者のバーンアウトを防ぐことにも繋がります。今後も事業所見学や事例検討会等は今後も継続して、高次脳機能障害の支援が県内全体でよりよいものに発展できるように取り組んでいきたいと思っております。

(佐藤 健太)

## 平成 29 年度第 1 回かながわ地域 リハビリテーション支援連絡会

平成29年7月19日(水)夕方、横浜市総合リハビリテーションセンターにて「かながわ地域リハビリテーション支援連絡会(県内のリハセンターが地域リハについて考える会)」が開催されました。今回は筋ジストロフィーをテーマに、現状や事例報告とグループディスカッションが行われました。

筋ジストロフィーには、小児期発症が多いデュシェンヌ型・ベッカー型、成人以降の発症が多い肢帯型・筋硬直性等があり、それぞれに発症時期や症状の進行に差異があります。ディスカッションでは「身体機能が低下した際に、今までのパターンややり方を変えることが難しい」「体位や機器のセッティングに細心の配慮を要するが、本人がどこまで言えるのか、本人の思いをどこまでくみ取れるのか、関わりの深い介助者にしか理解できない面がある」「小児時発症の場合は親が抱え込むことで、本人が思いを伝える能力が育まれない場合がある」「医療につながっているが、療育や福祉につながっていない場合があり、どのように把握していくか」「在宅就労等、社会参加の拡大や推進等福祉との連携が必要」等の意見が出されていました。

横浜、川崎の各支援センターや相模原市更生相談所のスタッフも、多くの筋ジストロフィーの事例に携っているわけではないようですが、発症率が10万人当たり17~20人とされていますから、ディスカッションでも検討されたように、療育や福祉につながっていないケースを福祉サービス等につなげて、症状の進行とともに本人のニーズに合わせ、思いを汲み取りつつ、生活環境や福祉用具の提供等の方策を検討することも必要になると考えられます。

(瀧澤 学)

編集後記 毎年恒例の支援センターのグリーンカーテン。今年は、副所長の丹念なお世話のおかげか、きゅうりとゴーヤがたくさん実をつけ過去最高の収穫となりました！季節の変わり目、体調を崩さぬように夏野菜を食べて乗り切りましょう。(砂川 久美子)

〒243-0121 神奈川県厚木市七沢 516  
神奈川県総合リハビリテーション事業団  
地域リハビリテーション支援センター  
TEL:046-249-2602 FAX:046-249-2601